

全国共同利用・共同研究拠点

原医研

RIRBM NEWS

ニュース

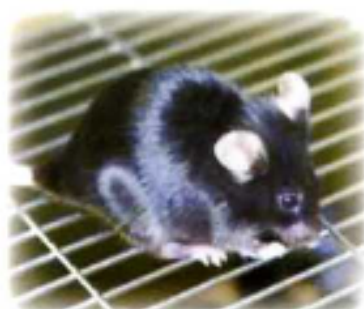
Aug. 1.2011 Vol.2

広島大学原爆放射線医科学研究所
放射線影響・医科学研究拠点



CONTENTS

所長挨拶	1
新任教授挨拶	3
共同利用・共同研究採択課題 (平成23年度)	4
研究活動紹介	6
ミニレビュー	8
原医研セミナー日誌	10
World Report	13



所長挨拶

広島大学
原爆放射線医科学研究所長

神谷 研二



平成23年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震の被災者の皆様に心よりお見舞い申し上げます。福島第一原子力発電所周辺の皆様にとりましては、原子力災害が迫いうちをかける形となり、大変心を痛めております。

原爆放射線医科学研究所（原医研）が蓄積してきた原爆被爆者を中心とした放射線障害の基礎から臨床応用につながる広範な研究成果・知識・技術は、原爆被爆者の苦しみの上に蓄積させていただいたものです。このたびの東電福島第一原子力発電所事故のように実際に被ばく者が発生した場合には、この研究成果・知識・技術をしっかりと生かすのが当研究所の役割であり、使命であると考えています。

広島大学では、地震発生後、直ちに原医研、大学病院及び医歯薬学総合研究科を中心とした「緊急被ばく対策委員会」を設置し、本委員会を中心に西日本ブロックの三次被ばく医療機関として、被ばく患者が発生した場合にも最善の医療を実施するための諸活動を行っております。具体的には、「緊急被ばく医療派遣チーム」（医師、診療放射線技師、看護師、事務職員の6～8名体制）を編成し、3月12日から3月31日までに延べ240名を被災地へ派遣し、原発敷地内作業員の緊急被ばく傷病者のトリアージ法や搬送体制の確立を支援しました。同時に、避難住民の汚染検査体制の確立とその実践、及び小児甲状腺被ばく線量調査などの避難住民の支援体制を築くとともに、福島県立医科大学において被ばく傷病者の対応を支援しております。原医研では、このように放射線影響研究と被ばく治療の専門機関として医師や放射線専門家を現地へ派遣し事態の収束に向けて少しでもお役に立つべく努力しているところであり、一日も早い事態の収拾と、被災地の復興を願ってやみません。

さて、原医研が平成22年4月に全国共同利用・共同研究拠点（拠点名：「放射線影響・医科学研究拠点」）として活動を開始して以来、平成22年度においては76件の共同研究課題を採択し、国内外の研究者とともに共同研究を推進し、あわせて我が国で求められている放射線分野の人材育成に鋭意取り組んでおります。平成23年3月3日～4日には、全国共同利用・共同研究拠点事業の一環として、「ゲノム障害から見た非がん性疾患研究」をテーマに第1回国際シンポジウムを開催し、国内外の放射線医学、遺伝学などの専門家による講演と活発な議論を行い、盛況のうちに無事終えることができました。

今後は、この度の福島原子力災害による健康被害を防止し、住民の安全と安心の確立に貢献するために、放射線影響・医科学研究分野の全国共同利用・共同研究拠点として、全国の研究者が連携して原子力災害に立ち向かえる体制を早急に整備致します。本拠点の活動を益々発展させていくことは、被災地支援にも繋がり、今こそ原医研の真価が問われている時と考えています。

今後とも皆様のご支援とご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

平成23年8月

